

## 栗井地区タウンミーティング(要約)

平成26年6月8日(日曜日)

【市長】 皆様こんにちは。今日は日曜日の午後でございます。皆様何かとご予定があったのではないかと思いますが、このように多くの方々がお集まりいただきまして本当にありがとうございます。このタウンミーティングの開催にあたりましては、栗井公民館の館長はじめ役員の皆様のお力添えをいただきました。まことにありがとうございます。このタウンミーティングは私が就任させていただいてから始めさせていただきました。どっちが楽かという話をすると市役所で待っているほうが楽です。でも、果たしてそれでいいのだろうか。松山市は松山市、旧北条市、旧中島町合わせて41地区ありますけれども、その41地区ごとに課題があったり、お困りの点もあったり、逆に魅力もあると思います。私たちが市役所で待っているのではなくて、我々から出向かせていただく、声を聞かせていただく、そしてできることからできるだけ早く反映しようということでタウンミーティングを始めさせていただいております。41地区すべて回らせていただきました。ガス抜きとかパフォーマンスでやっていたのだったら、多分1巡で終わっていたと思うんですけども、私はガス抜きとかパフォーマンスでこのタウンミーティングをやっているわけではありません。皆さんご存知のように、私は一市民からこの立場をいただいた人間です。もっと行政と皆さんの距離を近くしていきたい、もっと政治と皆さんの距離を近くしていきたい思いでこのタウンミーティングさせていただいております。今2巡目に入ったところで、栗井地区は去年の2月に来させていただきましたので、1年4か月ぶり2回目になります。また、今日もできるだけこの場でお答えをして帰りますけども、中には国と絡む案件、県と絡む案件、財政的な問題があるものについては即座にお答えできない事柄もございます。いい加減なことを言って帰るわけにいかないの、そういったものはいったん持ち帰らせていただいて、1カ月を目途に必ず地区にお返事をするがこのタウンミーティングでございます。やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしないタウンミーティングがこの松山版のタウンミーティングの特徴でございますのでよろしくお願いいたします。ご存知の方も多いたと思いますが、私の実家はお隣の河野地区でございます。高校3年間は自転車で、まだそのころはJRじゃなかったのですが、国鉄の栗井駅まで自転車で降りて行って、そして松山の学校へ通う、会社に入ってから結婚し独立するまでは河野の家から通っておりました。隣の地区の子です。今日は将来に向けての栗井地区、良い意見交換ができればと

思いますのでどうぞよろしく願いいたします。

【男性】 初めにお礼を申し上げたいと思います。2年間区長をさせていただいたんですけど、その間、直接行かなくて色々な課に電話してお願いしました。それに対して、親切に迅速に結果が出るまで多少時間がかかった場合もありますけれども、お願いしたことはすべて解決の方向で導いていただいて、公務員の方はすばらしいな、ありがたいなと思う2年間でした。今後ともよろしく願いします。健康づくりについて、医療費が毎年1兆円ずつ上がっているのはご承知だと思えるんですけども、原因は高齢化とか環境の悪化とかどういう食べ方をしているとかか食の問題等、ストレスとか色々な問題があると思うんですけど、健康は人間にとって一番大事なことで、健康であれば働けるし、気持ちよく生活ができるということで、松山市においても色々な課で一生懸命健康づくりのために医療費の削減のために、それぞれの課がされていると思います。ですけれども私たちも不勉強でいったいどう行政がされているのかが、わからない点があります。前回のタウンミーティングでも質問したんですけども、外国で始まった健康都市宣言が、日本では千葉県の1つの市で始まったんですが、今日では日本でも30いくつの市町村、そして3団体、県内でも西予市と四国中央市は健康都市連合に入ったことが、インターネットでわかったんですけども、大きな市ですからなかなか難しいと思うんですけども、健康をテーマに色々な課が有機的な連携をもってしていただいたら、我々も健康ですから個人が頑張らなきゃいけないことではあるんですけども、行政としてもできることについて、お伺いしたいと思います。

【市長】 全庁的な取り組みになりますので、私からお話します。ちょっとご紹介しますと、「スマイル松山プロジェクト」という全国的にも注目されている仕組みですが、最近、スマートフォンという進化した電話をお持ちの方が多くはございますけども、あれを使いまして健康を司っています。保健福祉部と産業経済部が連携して、対象は20代～50代の働いている方を中心に参加いただいて、ウォーキングを軸とした運動による健康づくり、「スマイル松山プロジェクト」をやっています。これはどんなことをするかというと、参加者の方の歩く量とか体重とか体脂肪などの健康データと健康診断の結果が蓄積されていきます。愛媛大学の医学部と愛媛大学の教育学部とも連携して、コミセンをやっているのは、松山市文化・スポーツ振興財団ですけども、ここの健康運動指導士が運動指導を行っています。ですから市役所と大学と事業者、産官学が連携した取り組みをやっています。これをやることによって、モニターになっていただいた方は4カ月でかなり体重と体脂肪が減少しました。健康につながっていく取り組みを

しています。今、国のお金をいただいてやっているんですけれども、松山だけが健康で悩んでいるわけじゃないです。どこの自治体も健康は大きなテーマですから、同じような悩みを持っているところと連携しながら、松山発「スマイル松山プロジェクト」をやって、「スマイル日本プロジェクト」にできたらいいなと進めているところです。お子さんもいらっしゃるのだから、わかりやすくお伝えすると、病気になったら自分も辛いし、家族も辛いし、社会も辛いです。社会保障費が要りますから、健康になると自分もうれしいし、家族もうれしいし、社会もうれしいんです。松山の方は検診をなかなか受けてくれないんです。特定健診はこれまで1,000円とか1,500円かかっていたんですけども、無料に4月1日からしましたから、ぜひとも特定健診を受けてください。そして、「歩いて健康まちづくり」、やっぱり歩かないよりは歩いていただいたほうが健康につながりますので、ウォーキングのイベントをいろいろとやっています。また、小学生の方は多分知っていると思うんですけど、「手洗い・うがい・歯みがき」推進ソングをつくらせていただきました。なぜかという、うがいをするとうぐいすの口の中がきれいに保てます。口は体への入り口、手を洗うのはインフルエンザなどの予防になります。今日も虫歯予防デーの関係で歯医者さんのイベントがあったんですけど、皆さん口の中は大変ですよ。バイ菌は夏に気温が30度以上ぐらいになると特に繁殖しやすいです。皆さん口の中を考えてみてください。口の中は37度と非常にバイ菌が繁殖しやすい環境です。水分がなければバイ菌は繁殖しませんが、口の中は唾液があります。そして栄養素でいうと食べたものをそのまましておくと、虫歯の原因の食料になります。口の中をきれいに保つことは、健康への非常に大きなウエイトを占めるので、口の中をきれいに保っていきましょうと、個別妊婦歯科健康診査といたしまして、妊婦さんはつわりなどもあって口の中をきれいに保つことが難しいので妊婦さんのときに健診を受けてもらう。歯周病の菌は口移しで赤ちゃんに食べものを与えたりするときに移るんです。口の中をきれいに妊婦さんが保つと、低体重で産まれてくるとか、早産のリスクも避けることができるので、個別妊婦歯科健康診査もスタートしています。40歳、50歳、60歳、70歳の節目のときに無料で受けられる節目歯周疾患検診もスタートさせていただいています。また、小学校で歯みがき指導があるんですけど、中学校に行ったら歯みがき指導がなくなるんです。ですので、体制を整えて、中学校でも歯みがき指導ができるようになっていきます。松山市としては、皆さんに健康になっていただくのは非常に大事なことです。さまざまな部署が連携してやっていますので、また皆さんもご協力をよろしくお願ひします。

【男性】 今さっきのお話の中で、健康づくりの中にウォーキングも取り入れておりますというお話で、西谷から波妻までの遊歩道をつくってほしいという前回のお話ですが、これに関連しまして、もう少し今度は西谷から横山城のほうをですね、このあたり栗井の東部地区には、栗井小学校の校歌や運動会の歌にも歌われた横山城跡があります。この横山城跡に行く栗井側からの遊歩道が今は全く通れない状態になっております。倒木や草の繁茂です。かつて、横山城跡は旧北条市が整備していたところだと思いますので、再整備できたらと思っています。距離的には1キロ足らずです。登った先には市の野外活動センターがあります。栗井地区には海・里・山があります。冬は里のスポーツとして愛媛マラソンがあります。今年は、市長さんがいい汗をかきながら頑張っている姿を見させていただきまして、ありがとうございます。また、夏は海のスポーツとして、近くにある中島のトライアスロンでしょうか。春・秋は山のスポーツがありません。2年後の8月には、山の恵みを感謝し、親しむ日として山の日という祝日ができます。安岡グラウンドから横山城跡を經由して、背後にある市の野外センターまでの整備をして、栗井地区に山のスポーツイベントをつくってほしい。栗井トレイルランニングレースとかできたらいいなと思っています。横山城跡からは全国に発信できる栗井坂から波妻まで一望できる自然景観があります。ちなみに近辺の県庁所在都市で、大分市産業振興課の森林セラピートレイルランニングの規模は400名、広島市安佐北区地域おこし推進課の可部連山トレイルランの規模は600名などが行われております。よろしく願いいたします。

【都市ブランド戦略課長】 都市ブランド戦略課の矢野でございます。ご質問、ご提言ありがとうございます。おっしゃいましたように、横山城跡地までの里道が、現在、荒廃していることは私どもも把握しております。この道は、かつて農業用として整備された経緯がございます。その関係から申し上げます。かつて農業用として整備された農道が現在は農業として使われていないことから、こうした荒廃している状況にあると思います。これをまた農業用とか林業用で使用したいということでございましたら、土地改良区から申請書をいただきましたら、事業の可能性について検討させていただきたいと思っております。林道として使用する際にもいろいろ条件はございますけれども、実施の可能性を検討させていただければと思っておりますが、農業用として使用する場合には要件がございますので、そうしたことをクリアできるかどうか、担当課が農林土木課になりますけれども、ご相談をいただければと思っております。それ以外に松山市として全体としてどのような支援ができるかについても、関係部局と検討させていただきたいと思っております。

います。

【市民部長】 市民部長の片山と申します。よろしくお願ひいたします。山道の整備についての要望は、各地区でお聞きするところですけど、例えば、桑原地区の淡路ヶ峠、生石地区の垣生山、正岡地区の八竹山、こういう整備などはまちづくり協議会が中心になって、地域の方々が主体になって整備をされています。松山市でも住民主体のまちづくりを目指して、まちづくり協議会の設立を目指しておりますが、この取り組みは地域の皆さんが主体となって、行政と協働で地域の課題解決や魅力を生かしたまちづくりを行うということをやっております。地域に存在する史跡をはじめとする地域の宝をみがき、よりよいまちづくりを行うことは非常に大切なことだと思っております。1人の住民の方、1つの組織だけで取り組むことは非常に難しいことだと思っております。そこで地域のさまざまな団体や組織がつながって、まちづくり協議会を構成して、その中で話し合いながら現状の把握や課題抽出、考えられる対策を取られまして、やっていくのも1つの可能性があるのかなと思っております。それとトレイルランニングですが、テレビでも最近よく拝見するんですけど、昨今のマラソンブームや登山ブームの波にのって、各地で定期的開催されています。しかし、不整地や林道の環境整備をするときに、土地の所有者の方のご理解やご協力が必要になります。加えて、利用者の方の安全確保や将来の維持管理などさまざまな課題がまだあると思っておりますので、現時点では、トレイルランニングの環境づくりは難しいと思っております。

【市長】 ちょっとお伺いしたいのですが、どれぐらいの道の幅ですか。

【男性】 昔の道ですから、1間ぐらいの道。

【市長】 1間ぐらいの道。わかりました。野外活動センターまで1キロぐらいなんですね。

【男性】 麓から行くと800メートル。市の野外活動センターと連携して友好的に使わせてもらったらと思います。

【女性】 栗井児童クラブの者です。現在、児童クラブは低学年の3年生までが対象になっておりますけれども、来年度から4年生以上の高学年も受け入れる国の方針が出たと伺っているんですけども、松山市でも対応で大変だと思いますが、私たちにも対応がどのあたりまで進んでいるのが、まだはっきりわかりませんので、あくまで私たち児童クラブの希望を言わせてください。栗井児童クラブもずっと定員はオーバーしております。それで、子どもたちの心身の安全も考えて、今は1年間ずっと利用してただける通年の児童だけを受け入れております。でも、そういう方針が出ましたので、先日、来年度に向けて夏休みとか冬休みの長期の受け入れが

どれくらいあるのかアンケートを取りましたら、20人近くの希望がありました。そういう方たちを受け入れることも含めて、女性が仕事を持つのも普通になってきましたので、児童クラブの利用はだんだん増えてくるんじゃないかと思います。それで、できましたら、プレハブのクラブ教室をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

【保健福祉政策課長】 保健福祉政策課の西市です。ご意見どうもありがとうございます。児童クラブの今後の見込み、定員増についてですが、児童福祉法の中で、平成27年度から対象者が小学校3年生から6年生まで拡大されることが決まっております。松山市内には64の児童クラブがございます。そのクラブの中で最大で70名の受け入れができるクラブもがございます。今、小規模で行われている児童クラブについては、今後その地域の児童数の児童クラブへの加入の見込みを調査中でございますので、地域にあった施設を今後検討したいと考えております。ただ、小学校のグラウンドの一角に、例えばプレハブの施設を建てるとか、小学校の空き教室を利用できるのは、限られた条件がございますので、今後、調査研究を早急に進めたいというのが現状でございます。

【市長】 私から補足させていただくと、国も出産とか子育てを大事にしなきゃいけないということで、子ども子育て関連3法が、来年4月からスタートします。皆さん聞かれたことあると思いますが、「幼」は幼稚園で、「保」は保育所です。幼保一元化。幼稚園と保育所を一元化しましょう。保育所は厚生労働省の管轄で、幼稚園は文部科学省の管轄です。出産と子育てをもっと大事にしていくということで、子ども子育て関連3法が来年4月からスタートします。これは、地方自治体にとって大きなことで、国自体が全国一律でやってくれることになりますから、これまで市で単独でするよりも国全体としてバックアップを受けられる。そうなりますと大変ありがたいことになります。

【男性】 今年度から栗井地区自主防災連合会の顧問と光洋台の自主防災会の情報班長として自主防災活動をしています。今回は災害時の避難道路として重要な通学路に防災士としてぜひ市長さんに改善をお願いしたいということで、お話をさせていただきます。松山市は子どもたちが安全・安心に学校に通えるように、通学路の危険箇所を地域・学校・PTA・警察・国・県・市の道路管理者の皆さんが一体で合同点検をされていることをお聞きしています。栗井地区でも合同点検をされ3カ所を危険箇所として抽出、2カ所は改善されていますが1カ所は検討中であるとホームページに書いてあります。しかし、まだ危険な場所があります。この改善センターの下の東側道路ですが、久保・鹿峰・苞木地区の児童多数が朝に通

学、あるいは帰っております。しかし道路のすぐ横に排水溝があって、児童が転落してけがをしておるとい話を聞いております。もちろん真っすぐに歩けば転落はしませんが、子どもたちですからふざけるときもあり、何人も転落してけがをしたと、ぜひ排水路を暗渠にしたり道路を拡幅して歩道の安全策を設置するなどの対応を検討していただきたい。それから次に小川、磯河内、和田を通過して栗井小学校や北条南中に通じる通学路があります。栗井小学校から磯河内は拡幅工事が終わって5.6メートルの2車線になって、歩道もあり安全に通学として使用できます。しかし、磯河内から小川の間は2カ所の拡幅工事が中断され、道路幅が5.6メートルから3メートルに狭くなっているところがあります。そのため栗井小学校の児童の皆さんは、集団登下校時は国道196号線を迂回しています。しかし、北条南中の生徒さんは自転車通学の通学路として使っています。この通学時間帯は通勤時間帯と重なってマイカーの通行量が多く、特に光洋台クリニックのところの信号を遠くから見てスピードを出す。30キロとなっていますが、50～60キロ以上で走って非常に危険です。そういうことで周辺住民は事故がなければいいかと危惧しております。特にこの道路は光洋台・小川地区から栗井小学校への避難道路にもなっております。通学路の危険箇所は災害時の避難道路の危険箇所と表裏一体でありまして、自主防災連合会としても通学路の危険箇所の点検に協力する用意がありますし、ほかの通学路の点検についてもほかの地区も同じようなことがあると思うので、各地区に自主防災連合会がありますので一緒に加えていただければと思います。今までご説明しましたとおり、このような危険な状態が続いております。なぜ、いつまでもこの状態が続くのか、いつ工事が終わるのかなという事で周辺の住民は素朴な疑問を持っています。遅れている理由も知らされておりません。児童・生徒の自動車事故があったら泣くのは児童と家族、運転者だと思います。このような状態が続けば市政への不信感につながると思います。拡幅工事がなぜ中断され完成が遅れているのか、工事開始時の事前調査や地元折衝はどのようにされていたのか、いつごろ完成するのかをいつも我々が話している内容です。児童・生徒を安全に通学させるために1日も早い完成を地区住民は望んでいます。野志市長、必ず完成させていただくようによろしくお願いします。

【市長】 いくつかいただきましたが、まず拡幅の件で止まっている話ですけれども。

【都市政策課長】 都市政策課の川口です。よろしくお願いたします。何点かいただきましたけれども、最初の通学路の拡幅の件は、いろいろ工事に関わる事、すぐにできる安全対策もありますので、そういうことに

も取り組んでいきたいと思っておりますので、また後で場所を教えていただいたらと思っております。

【市長】 今日では1時間半ですけれども、我々3時半に終了したらすぐに帰るわけではございません。ご安心ください。地図を持ってきております。通学路とか付近の道路で「ここ、ちょっと危ないよね」みたいなどころがありましたら遠慮なくおっしゃってください。そのために地図を持ってきておりますので、下水道とか危険に感じる通学路とかガードレールがどうかカーブミラーが欲しいなどありましたら遠慮なく言っていただいたらと思っております。

【都市政策課長】 2点目の現在工事が止まっていることについてですが、この道路は市道常竹小川線という名前でございます、平成18年度から事業を開始しております。先ほどご説明いただきましたように大変危険な場所ということと、交通量が多いということで地域の方から強い要望があって工事を進めているわけでございますけれども、小川の地区と磯河内の地区の2カ所で現在、整備が中断しております。その理由についてはいろいろあるんですけれども、磯河内の部分はこれまで補償の物件のことで所有者の方と協議を進めておりましたけれども、実は6月4日のつい先日ですけれども物件の所有者の方と移転の契約の成立が整いまして、事業がまた進めることができることになりました。早急に事業を開始しまして今年度中に工事は完成する予定でございます。もう1カ所の小川の部分についてですけれども、これは愛媛県が管理しております払川という橋梁の部分でございます、道路の拡幅にともないまして橋の架け替え工事が必要でありますので、現在、架け替えについて愛媛県といろいろ協議を行っております。橋の断面とかについていろいろと協議を進めておりますけれども、これも早急に協議を終わらせまして協議が終わり次第、事業に関わりたいと思っております。これまでの地元交渉とか事前調査が不十分であったのではないかとご指摘でございますけれども、経緯を申しますと平成19年2月に地元関係者の説明会、20年にも地域の役員の方や学校の関係者等に説明会を行いまして、できる限り早く状況を改善したいということで、工事が着手できるところから着手した関係で、現在2カ所が残っておりますけれども、早急に事業を進めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【男性】 今のお話では磯河内については工事が着工できるということですね。ありがとうございます。小川の払川の橋についてはこれから県とお話をするということですかね。県にも県知事にメールで問い合わせましたら、市からの改善工事の要望があれば早急に対応すると県知事の回答をい



ただいておりますので、できるだけ早く完成していただくように、ひとつよろしく願いいたします。

【都市政策課長】 県の問題については現在協議中のございまして、これからではないので、前向いていくようにします。よろしく願いいたします。

【市長】 私から補足を。これは粟井地区の話ではなくて市全体の一般的な話として聞いていただきたらと思うんですが、ここまで道が広いのに、ここから急に道が狭くなったみたいなこともありますけれども、大体は物ごとには理由があります。今、何にも理由がなくて物ごとが止まっていることは基本的にないと思います。市民の皆様からの目もありますし、事業としてなぜ止まっているのかは大体理由があります。これは一般的な例として聞いていただきたいのですが、地元の方のご同意をいただかないと道は広げることができません。道があつてAさんBさんと住んでいるならば、Aさんは「いいよ、下がるから」と言ってくれる。例えばBさんが「私はここに愛着があつてどうしても下がりたくない」というところがあると、なかなかご同意いただけないことになります。行政として、でこぼこになった道はなかなか難しいですから、大体そういう経緯もある。同意をいただかないといけない。なかなか強制的にできるものではないところがあるのが1つ。それと、この立場をいただいて3年半で思うことですが、どう広報をしていくかも難しいところですが、できるだけ皆様に広報をしたいとは思っているんですけれども、広報をすることによって逆に進まなくなってもいけないことも考えながら、できるだけ広報はしていく大前提のもとに進めていきたいと思っています。また、子どもさんもいらっしゃるもので、これも一般的な話として考えていただきたらと思うんですが、道がある横に溝があつて、溝を蓋してくれたら道が広がるのにというところがあります。ただ、大体水路は農業をされている方が使っているケースが多いです。農業をされている方としたら、蓋をしてしまうとごみが流れて詰まってしまったときに、のけるのがしにくくなるということで、農業関係の方は蓋をするのはちょっとなところがあります。それとご同意いただいて水路に蓋をした場合、逆に道が広がることによって自動車がスピードを出しやすくなる抜け道になって危なくなってしまう例もあります。ですので、総合的に考えながら進めているところのございまして。また、皆様の声をいただくのは非常に大事なことでありますので、今日は3時半ですぐ帰るわけではございませぬので、地図を持ってきておりますので、危ないと思うところがありましたら言っていただきたらと思います。地元の合意をいただくために我々が動くことももちろんできますので、よろしく願いいたします。

【男性】 市長がJRと伊予鉄市駅の乗り入れを考えていらっしゃる。

【市長】 伊予鉄道の郊外電車と路面電車ですね。

【男性】 続けてJRも一緒に乗り入れていただくと北条地区もまったく変わってくると思うんです。例えば粟井駅から乗って道後に行くとか、三越に行くとか、全部ネットワークが組めてしまうことになると思うんです。今、考えないといけないのは大きなインフラ、ライフインフラを含めて交通インフラ。人と人が会わなきゃいけないことって結構あるわけです。それが松山市と一体になっていくと。これは松山市全体あるいは東温市・伊予市も含めた大きな交通インフラになってくる。そうすると、今までどんどん市街地が空洞化していったのが、まったく違う形の土地利用ができてくる。そして駅前商店街もまったく人もいません。市長も一生懸命にプロジェクトを組んでいただいて人を集めていただいています。逆にそこが土地利用できるようになってくる。例えば新しい中古住宅が出てくる。あるいは子どもたちが学校にすぐ松山に行けるようになる。そういうことも含めてぜひJR・伊予鉄の路面電車も含めて乗り入れを考えていただくとありがたい。そうすると北条の我々も含めて、いろいろ協力ができるんじゃないかと思っています。ベットタウン化して新しい特区をつくらうという話もあったみたいですが、そのインフラ1つできるとまったく違った形になってくる。要は骨組みができてくれば、あとは葉っぱや花はいつでも咲くんだという気になりました。ぜひ頑張ってくださいと思いますので、よろしく願います。

【市長】 はい、ご意見ありがとうございます。お金があったらできるんですけどね。実はおっしゃるように公共交通はものすごく大事です。中学生の皆さんもいずれおじいちゃんやおばあちゃんになっていくわけで、おじいちゃんやおばあちゃんになると視力が悪くなる、運動能力が落ちてくるので運転免許の返納をしないといけなくなるんです。自動車がないと生活できないまちもあるんですけど、粟井はJRが通っています。バスも通っています。1,800市町村が全国にあるんですけど、わずか17しか走っていない路面電車が松山市の中心部に走っている。郊外電車も横河原線・郡中線・高浜線と走っている。これはものすごい宝です。これは高齢化に対応したまちづくり、環境に配慮したまちづくりができるので、松山はものすごく伸び代が高い。この前も北条の公民館主催の運動会に行ってきたんですけども、最近、正岡か難波だったですかね、あの辺も新しい家ができて子どもさんたちが増えているんですね。まちづくりでよく言うのが、お団子と串の考え方といいまして、串が線路で大きな円が松山市中心部としたら交通の便がいいですから駅の周りに住宅が集まってくる。

今、北条でも駅の周辺に新しい家ができてくるってありますけれども、これがこれからのまちづくりでお団子と串の考え方というものです。便利のいいところに家が集まってきて、北条であったら松山に通っていかうということです。お団子と串の考え方ですけど、公共交通を軸としたまちづくりは、これからものすごく大事というのは確かなところですよ。これまでもJRと伊予鉄の乗り入れができないかと考えたことがありまして、伊予鉄道の西衣山駅とJRの線路が近いところに駅をつくって乗り入れができたという話があるんですけど、JRさん側からごめんなさいと言われてます。なぜかという、あそこに駅をつくってしまうと、松山から三津浜駅の間となる場所に駅ができてしまい、そこで止まらないといけないことと、カーブになっていてホームをつくるのがなかなか難しいと言われてます。ほかの場所を探す手もあると思うんですけど、すでに検討しているけれども、なかなか困っている。今、郊外電車と路面電車の直接乗り入れは何で言っているのかというと、松山は不思議なことに東西南北できれいに病院が配置されていまして、愛媛大学医学部の前には郊外電車の電停がありあす。四国がんセンターの近くには梅本駅があります。市駅のところには県立中央病院があります。JR松山駅のところには民間ですけど松山市民病院があります。そして城北には赤十字病院があります。いずれも電停の近くです。郊外電車と路面電車が直接乗り入れができたなら、乗換なしで郊外の人が例えば日赤前で降りて受診やお見舞いをして郊外に帰れる。その逆もできる。ものすごく高齢化に対応したまちづくりができるんです。そういったことで、直接乗り入れができないかと言っているんですけど、松山市営の電鉄であったら自分のところが持っているから話が簡単です。でも、民間の伊予鉄道さんが持っていますから、じゃあ松山市はどれだけ協力をしてくれるんですかという話になります。松山市が100パーセントお金を出しましょうといったらものすごく話は速く進むでしょうが、でも行政は皆さんのお金を使わせていただいているんです。限られたお財布の中で色んな事業をしないといけないです。だからある部分だけに思い切って突っ込むのだったら、ある部分は削らないといけないかもしれません。そういったことを考えながら進めているところですが、公共交通機関はものすごくこれからのまちづくりを考えると大事なところなので、ここは重視していきたいと思えます。あと1点、国は1千兆円の借金を抱えています。これは小学生の皆さんにもわかりやすく、国から地方には地方交付税交付金とか国庫支出金という形で地方にお金が回ってくるんです。お兄ちゃんやお姉ちゃんの仕送りと一緒に、親元が借金を抱えていたら仕送りを大部回せるかといったら回せないですよ。

だからこれから地方に回ってくるお金が増えるとはとても考えにくいんです。限られたお財布の中でやっていかないといけない。こういうタウンミーティングをさせていただいて「市長これやってよ、あれやってよ、これやってよ。」と言っていただきます。私も人間ですから「わかりました、それやりましょう。あれやりましょう、これもやりましょう。」と言ったほうが私も楽です。でも、それをやってしまうと将来の子どもたちにツケを残してしまう。市長の人気取りのためにどんどんやっていったら将来の世代がツケを受けることになりますので、でも、皆さんの声に耳を傾けることはすごく大事なことで、優先順位をつけるために何をしないといけないかはすごく大事なことで、こういうタウンミーティングをさせていただいております。財政的な問題もあって、なかなか難しい面もあるんですけども、公共交通はすごく大事だと考えておりますので、また、ご理解のほどお願いします。

【中学生】 北条南中学校です。先ほど通学路についてのご意見が出たので、私からも1つお願いがあるんですが、私は毎日、北条南中学校まで自転車を使って通学しています。昨年度までは歩道を通行してもいいと許可が出ていたのですが、今年度に入り路側帯を利用しての通学になりました。すると雨の日や風が強い日には自転車がどんなに自分たちが努力しても少しグラグラと揺れたり、危ないと危険を感じる場合があります。また、先ほどおっしゃっていたように車がどんなに私たちが気をつけていても、ビュンビュン飛ばしていたら私たちも危険を感じます。また、自転車と車との距離がとても近いので、私たちも毎日の通学のときに不安を感じるようになりました。そのことについて、何か市で対策を取っていただけたらと思います。

【市長】 通学路がどの辺か言ってもらっていいかな。皆さんとも共通認識ができると思うので。危ないなと感じるところ地図に指で差してもらっていいですか。旧道のところを通ってきているんでしょ？

【中学生】 バイパスのほうを通っている人は通行できるんですが、粟井小学校のところから北条南中学までのところを私は使っているんですが、こちらのほうも友達も危険だと言っています。実際に私もここから北条南中に通学しているので。

【市長】 なるほど。どちらかというところこちらにお住まいの子のほうが危険を感じている感じかな。

【中学生】 私が聞くところでは粟井小学校よりも北側の北条南中学校側。ここはガードレールがついているんですが、とにかく車との距離が近いので、危険だと思うんです。

【市長】 わかりました。今日、早速帰りに通って帰りましょう。ありがとうございます。私から逆にお伺いしたいんですが、地元なので旧道と言っているんですが、旧道で構わないでしょうかね？

【男性】 中間道路。

【市長】 あれは制限速度は何キロですか、40ですか30ですか？

【男性】 40キロ。

【市長】 あそこ40キロですか。例えば色んなやり方ができると思います。抜け道はわかりますので重点的に西署の交通課に重点的に見ていただくというのもありますし、例えばこれは皆さんもご協力いただかないといけませんけれども、「ゾーン30」というやり方があって30キロ規制にするやり方もありますが、これは皆さんもそれを守っていただかないといけなくなりますので、周辺の方にも影響があるものです。これは多分地区の同意がないとできないと思います。まずは今日、帰りに通らせていただいて対策を考えたいと思います。

【男性】 これまで自転車は中間道路の設置されている歩道の部分を走行してもいいという西署との合意があってやっていたんですが、この度の道交法の改正の施行によって、やっぱり法律は法律ですよということで今年度4月に西署の交通課から直接ご指導がありました。法律を守らないわけにはいけないので、左側通行ということで通学方法を変えました。中学生は守っているんですけれども、登校指導のときに見ていると車のスピードが非常に危険だということで、また地域の方にもいろいろ見守っていただいたり、いい方法がないかお知恵をいただきたいと考えているところです。ちょうどこの機会に意見が出ましたので、市としてもどういう対応ができるのか、またお知恵をいただいて子どもたちが安全に登下校できるようにご協力いただければありがたいです。

【市長】 はい、わかりました。北条南中からあの道を通って帰りましょう。これはいい機会だったと思うんです。子どもが言うことですから。将来の粟井・松山・愛媛・日本を背負って立つ子どもたちが、危険に感じているので、これを地区の大人の方々と共通認識を持たたというのは大事なことだと思います。私どもも真摯にとらえさせていただいて何ができるかを考えていきたいと思っています。

【小学生】 粟井小学校です。僕が住む和田地区の旧道やバイパスになぜかわからないですけど、信号がないんです。以前にも事故や車がぶつかっているところを見かけたりしているので、自転車で通っているときにも事故にならないように信号をつけてもらいたいと思っています。

【都市政策課長】 都市政策課です。信号機の設置についてご意見いただ

きましてありがとうございます。実は信号機は警察が所管になってつきますので、ご希望の場所があったらお教えいただいたら私から西署に伝えさせていただきたいと思います。なお、実際に信号を設置する場合には、交通規制がかかるようになりますので、地域の皆さんと意見を1つにするといえますか、大人の方にも相談をしていただいて、危険と感じる状況を皆さんで共有をしていただいて、意見がまとまったら地域から警察また松山市にご意見を上げていただけたらと思います。お願いいたします。

【男性】 先ほどから通学路の話が出ていますので、ちょっと1点気がついたことがあります。今出ている話は全部お願いする話、要求型の話だったんですが、栗井地区の自主防災連合会の防災士の方がいい質問されたと思うんです。それを皆さんご存知でしょうか。通学路の点検は栗井地区自主防災連合会が入っていない、防災士の方が入っていない。連絡してくれれば我々も通学路の点検等は災害時の避難通路と表裏一体だからやりますと話がありました。これはここだけの問題でなくして、松山市全体の問題でもあると思います。せっかくそういった専門教育を受けた防災士の方がおられますから、そういう方にも点検に入らせていただいて、さらに安全なことを見出すという趣旨の質問であったと思うんです。これはぜひ松山市全体で取り入れたらいかがでしょうか。そういうことをちょっと思いました。これはお金はかかりませんから、電話1本で済むことですから、ぜひ検討してみてください。

【市長】 これは経緯を述べさせていただけたらと思います。平成24年の春のことだったと思います。京都の亀岡だったと思うんですが、通学路を子どもたちが通っていたときに、一晩中運転していた若者の車が突っ込んで10名の方が死傷した事件があったと思います。それを受けて、松山市ではそういうことが起こらないように何とかしてくれと指示を出しまして、夏休みの通学路の緊急合同点検になりました。このときは、国道だろうが県道だろうが市道だろうがそんなことは関係ない、市だけでなく、国も参加してください、県も参加してください、市の担当者も出る。やっぱり小さな小学生がそういうことがあってはいけない。一番危険を感じるのではないかということで、小学校の先生方にもPTAの方々にも保護者の方にも、地域の方にも参加していただいてだったと思います。警察の方にも参加していただいて、緊急合同点検をさせていただきました。およそ300カ所の危険箇所が出てきたんですけれども、今、ホームページで全部出しています。どういう対応をしましたと出しています。こういう方針でやりますというまだのところも出しています。緊急点検ということでやらせていただいたので、国・県・市・警察・学校関係の方々で夏休みの暑いときにやっていただいた

経緯があります。私も去年の夏に防災士の資格を取らせていただきましたけれども、入っていただけるなら喜んで、加わっていただけたらと思います。もともとあのときは通学路の点検だったので、そういう形だったんですけれども、確かに皆様は防災について長けた知識をお持ちですので、入っていただけるのだったらありがたく思います。

【男性】 今、中学生の方が言われた通学路は私も自転車で通っていてトラックが横を通って恐ろしいことがありましたけど、前回のときも自転車道をつくりたいと市長さんおっしゃられましたよね。ですから1年や2年でできなくても、長期的に歩道・自転車道・車道も考えていただけたらと思いますし、それから浅海線の苞木のあたりではものすごく広い歩道がありますから、あそこを通れるのだったら中学生は安全ですけど、そういう現場を見て、自転車道も考えていただけたらと思います。

【市長】 松山市としてはできるだけ歩行者と自転車を分けていきたい思いですので、お金の限りがあるんですけども、地元の方のご同意もいただきながら工事もしないといけないので、進めていきたいと思えます。

【小学生】 粟井小学校です。粟井川のことですけど、粟井川の土手の草刈りをしてほしいです。マムシやイノシシの隠れ家となり、農家の方に迷惑をかけているからです。また、通学路に出てきて危険な思いをするので土手や川の草刈りをしてほしいです。

【下水道政策課長】 下水道政策課の高市と申します。ありがとうございます。粟井川は愛媛県の管理している川にはなるんですけども、後で場所を教えてください、私どもから県にお話は持っていきたいと思えます。それから川の管理ですけど、地域で川を守っていこうという「愛リバー・サポーター制度」があるんです。粟井川についても「粟井ちとせ老人クラブ・粟井小学校」で登録をしていただいています。地域の方と愛媛県・市で例えばゴミ袋を提供するとか、草刈りの鎌をお貸しするとかで、一緒になってやっていこうということがございますので、そういう活動も一緒に考えていただけたらいいかなと思えますので、今言われたことはお伝えしたいと思えます。ありがとうございました。

【市長】 松山市のタウンミーティングでは、「それ国なんですよ。それ県なんですよ。それ市なんですよ。」と言わないことにしているんです。確かに粟井川の管理は県ですけど、私どもから言いますのでご心配なく。皆さんどこが国道でどこが市道でどこが県道かわからないですよ。遠慮なく言ってください。敷居が高くなるよりは敷居が低いほうがいいですから遠慮なく言っていただけたらと思います。これはもし大人の方がよかったらですけども、粟井川では西警察署の粟井駐在所から上流へJRの線路の区間で「粟

井ちとせ老人クラブ・栗井小学校」が団体として登録して河川清掃などの活動をしているんです。「愛リバー・サポーター制度」に加わっていただいたら登録団体が行う河川の清掃活動に対してボランティア保険の加入、保険加入していたら何かけがをしても保険で賄うことができる。そして、ゴミ袋などを無償で用意します。草刈り鎌・草刈り機を無償でお貸しします。草刈り機があると楽ですね。それと出てしまったごみはどうなるかというのと、ゴミの運搬・処分などの支援をこちらで行わせていただく制度がありますので、よろしかったら大人の方よろしくお願ひいたします。

【小学生】 通学路ではないんですけど、テトラのすぐ近くに車の通れるぐらいの道があるんですけど、あそこがとってもガタついていて、しかも真ん中に大きな段差があって、とてもこけやすくなっているんで、その道を舗装してくれればありがたいです。あと、引いていた白線がほとんど消えかかっているところがあって、もうわからないところがあるので、その白線を濃くしてほしいです。

【都市政策課長】 都市政策課です。ご意見ありがとうございます。道路も色んな部局が管理しております、おそらく市道ではないと思うんですけども、また管理者に連絡をして対応するようにお伝えしたいと思いますのでお願ひします。また後で場所を教えてください。

【男性】 栗井の区長会の会長をしております。今、後を引き継いで自主防災会の会長も兼任になってございます。栗井川の清掃はクリーンデーの市民大清掃のときに毎年1回はしてございますので、そのときには地域から大体80名程度、草刈り機を持って川の清掃をしてございます。通学路のことですが、今の中央線はここの出口のところの対岸です。だから4メートル向こうの溝のことを言っております。その溝がそのバイパスの陸橋のところから今の小学校の久保池のところまでの通学路のことを言っております。その通学路のところに横断歩道をつけてくれと栗井駐在所の駐在員にお願ひをしてございます。これが2週間くらい前です。それから今のは磯ノ川池のところの中央線の歩道のことを言っています。以上で小学生にはわかっていただいたと思いますが、これから質問をさせていただきます。私は自主防災の会のお世話をしておるんですけども、去年、市からモデル事業で30万円もらいまして、中古の倉庫を買いまして、そこに防災資機材をいろいろ買わせていただきました。それから初の防災訓練をしまして、350～360位の人数が来るだろうとマイク放送をしまして、実際は499名、あと1人来たら500名になるところだったんですが、いろいろ豚汁とかおにぎりとかつくりましたけど、数がとても足りないんで追加をしたことがございまして、嬉しい悲鳴を出しました。そこで



見つかった問題があります。アンケートを取りました。人数が20代から40代が9パーセントと極端に少なく、60代70代のほうが多く30パーセントの人が来ている。1つだけ私が今日言いたかったのは、平成5年ぐらいに安岡避難地に避難場所を決めて集まっていたんですけども、安岡避難地は今ソフトボールが2面できます。もうひとつ上に1面ぐらいのソフトボールができる駐車場があります。そこに避難してきた人等が歩いてくるわけですけど、20分30分かけて来る人がおります。芝生がないですから座るところがない。それからベンチがない。雨が降ったらどうするのというところ。それから井戸水がなくて水道が3カ所あります。トイレは1カ所です。そこに毎年ソフトボールやサッカーの練習に松山とか宇和島とか新居浜とかから練習試合に人数がものすごく来るんですけども、トイレは1カ所しかないわけです。これが避難地と言えるかどうか、私らはそれを運動場だと言っております。避難地としての名前がついている限りは、ベンチがあり、屋根があり、自転車が置けるような屋根つきのカーポートみたいなものがずっと並んでいるとか、雨除けがあるところが避難地じゃないかと。私ら避難訓練してすぐわかったのが、これは机上の空論だと。だから1つ私たちが言いたいのは、今まで平成5年から北条と合併してからどこに何が増えたかという増えていないんです。何にも増えていないんです。井戸水を掘った覚えもない、トイレもつくった覚えがない。私たちが言いたい避難地と呼べるものじゃないと思うんです。これはグラウンドなんです。でもここに500名が集まった。ここで豚汁とか色んなものをつくった。避難地として認められているところが避難地じゃないという、これが私の言いたかったことです。ここにトイレをあと1カ所増やしましょう、1年に1カ所ずつ増やしましょうとか、ちょっとずつつくってくれる。ベンチをちょっとずつ置いてくれる。それから一番大事なことは先ほど言いました児童館のことです。粟井地区とか、堀江地区とか北部に児童館という施設がございません。だから北部地域につくりますと去年は有力な候補ですと市長さんはそうおっしゃいました。北条地域どこでも構わないのですけれども、できましたら用地が公共用地ですので、用地の購入をする必要がないことが1つのメインだと思います。それから粟井川のすぐ横ですから伏流水もあります。そういうところを利用して児童館なり老人憩いの家なり何らかの公共施設を補助金を使ってでも建てていただいたら、もし雨が降ったとき、もし地震があったとき、何かのときの避難したところに小学校なり安岡避難地なり、もしそういう施設があれば雨がしのげて避難ができるんじゃないかというのが私の希望です。できましたら色んな補助金を使って色んなことを計画していただいて、

一気にしてもらわないです。井戸水も手押しポンプが欲しいくらいの井戸水です。電気もモーターでしたら電気が来なかったら困りますので、江戸時代のつるべじゃないですけども、そのようなものでも結構です。できましたら井戸をつくってほしいということをお願いいたしたいと思います。以上です。

【消防局総務課長】 消防局総務課の中矢でございます。防災に関する質問をありがとうございます。安岡避難地は松山市の地域防災計画に基づきまして、一時避難場所に指定させていただいております。地域防災計画では避難場所の定義が3つございまして、避難所・一時避難場所・広域避難地がありまして、一時避難場所は一時的に地域の皆さんが避難していただいで、安全を確認した上で避難所に移動していただく施設でございます。安岡避難地は一時避難場所でございますので、一時的に地域の皆さんに避難していただいで、近隣であれば栗井小学校が避難所に指定させていただいておりますので、栗井小学校に避難していただいたらと考えております。いろいろとご提言いただきましたので、例えばベンチとかにつきましては持ち帰らせていただいで、できることから検討させていただきたいと思っております。それとこの場をお借りいたしまして、栗井地区の自主防災組織は松山市でも特に活発な活動を展開していただいております。訓練や研修会、また地域の特性に応じた防災マップなどもつくっていただいておりますので、今後ともこの活動をぜひ継続していただきたいと考えておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

【市長】 熱心なご意見をいただきまして、本当にありがとうございます。残念ですけども時間がまいりましたので、ご予約のある方もいらっしゃると思いますので、このあたりで閉めさせていただいたらと思います。今日、途中でも申し上げましたが、私は一市民からこの立場をいただいた人間です。やっぱり政治と皆さんの距離、行政と皆さんの距離ができてしまうことはよくないことだと感じております。市役所に言っていただいたら「この方法はできんのやけど、こういうやり方はできるんですよ」ということをお伝えできることもあります。ですので、どうぞ敷居を高くなさらずに、市役所は市民の皆さんの役に立つ所で市役所じゃなきゃいけないと思っておりますので、これからも皆さん遠慮なく言っていただいたらと思います。松山市役所にはホームページで「市長へのわがまちメール」という制度がありまして、市長に直接メールをできる制度がございます。そういうのを使っていただいてもいいですし、はがきでも封書でも何でも結構ですので遠慮なく言っていただいたらと思います。これからも市民の皆さんの役に立つ所でありたいと思っておりますので、いろいろとご要望を寄

せていただいたらと思います。今日は本当に熱心にありがとうございました。

— 了 —